モード家の一夜（1968）

MA NUIT CHEZ MAUD
MY NIGHT AT MAUD'S [米]
MY NIGHT WITH MAUD

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス　コメディ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 110分
初公開日 1988/11/23
公開情報 ユーロスペース

【解説】

Ｅ・ロメールの“六つの教訓話”のシリーズ３作目。ハイ・キーが美しい、アルメンドロスの映し出す白黒の雪の光景が幻想的な美しさを醸し出しているせいか、いつにも増して寓話の趣が濃厚。北フランスのクレルモンでタイヤ会社の技師を務める主人公の“私”は、カナダ、南米と回って故郷に帰ってきたばかり。３４歳でいまだ独身なのは、自分の望みが高いせいだと多少自覚はしている。旧友ヴィダルと再会し、彼が気のある美しい女医モードの家を共に訪れた“私”は、ウィットに富んだ彼女との会話にすっかり和まされる。が、カソリックの熱心な信者の彼にとって、そこを突かれると妙に邪心も覚めてしまう傾向がある。無神論者のモードは離婚経験者で恋愛や結婚に関してもシニカルな見方をする。折しも降ってきた雪が彼に試練を与えた。車の運転は危ないから泊まっていけ、という彼女の言葉は明らかに誘惑で、ヴィダルは怒って帰ってしまった。モードは今、薄物一枚でベッドに横たわって話している。しかし、彼は毛布を身体に巻きつけて、彼女の横で眠りはするが、決して寝具の内側に入ろうとはしない。そして、朝目覚めて、伸びをする彼女の肌が彼に触れ、思わず“男”を呼び覚まされるのだが、モードはすでにその気ではない。さて、“私”には町に着いて早速通った日曜のミサで見初めた金髪の女学生フランソワーズがいる。彼女こそ彼の理想で、彼女との結婚すら直感する“私”はミニ・バイクで走る彼女とすれ違うだけの日々であったが、モードにもそのことは話した。二人の女性の間を揺れているような“私”も、遂にフランソワーズと結婚の念願を叶えるのだったが……。パスカルの“賭け”などが引用され、さしづめ、ロメール版「ゲームの規則」と言ったところか。ミニマルな話の分だけ、凝縮された人生哲学が伝わって、苦い笑いを伴う快作だ。トランティニャンの優柔不断ぶりが絶妙である。

【クレジット】

監督	エリック・ロメール	Eric Rohmer
製作	ピエール・コトレル	Pierre Cottrell
	バーベット・シュローダー	Barbet Schroeder
脚本	エリック・ロメール	Eric Rohmer
撮影	ネストール・アルメンドロス	Nestor Almendros
音楽	ウォルフガング・モーツァルト	
出演	ジャン＝ルイ・トランティニャン	Jean-Louis Trintignant
	フランソワーズ・ファビアン	Francoise Fabian
	マリー＝クリスティーヌ・バロー	Marie-Christine Barrault
	アントワーヌ・ヴィテーズ	Antoine Vitez

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.